

## 第10回大阪大学野田村サテライトセミナー（復興コース） 「お寺と自治体の災害時協力」

2013年12月11日、大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラムのもと開設された「大阪大学野田村サテライト」にて、「第10回大阪大学野田村サテライトセミナー」を開催しました。今回のセミナーは「復興コース」として、大阪大学の稲場圭信先生をお招きし、「お寺と自治体の災害時協力」について語っていただきました。



セミナーの様子



講師の稲場先生

今回のセミナーには村民や野田村役場の方を含む11名が参加してくださいました。また、今回も遠隔教育システムを使用し、大阪大学の教員1名と学生2名も参加しました。



遠隔通信の様子



セミナーの様子

セミナーはまずお寺の役割についての話題から始まりました。お寺、というと一般には葬式などの行事で訪れたり、法隆寺のような有名なお寺は観光で訪れたりします。しかし東日本大震災時には、お寺や神社が避難所として機能した例が多くあります。宮城県気仙沼市の清涼院や、同じく気仙沼市の岩松八幡神社などがその例です。ほかにも、災害時には宗教者による救援・支援活動が多くみられたといえます。このように、被災地では場所の提供や人的資源など、宗教が大きな力を発揮することができます。

こうした事例を受け、町や市の行政が、お寺や神社と災害協定を結ぶ動きが活発になっています。災害協定とは住民や観光客に避難所として場所を提供する、という協定で、全国で協定を結んでいる自治体と宗教施設は 223 宗教団体もあります。

災害時の避難所の確保のため、稲場先生は「未来共生災害救援マップ」（略称「災救マップ」）という、全国 8 万避難所、20 万宗教施設のデータを集積した日本最大のマップの作成に携わっておられます。この災害救援マップにより、各自治体が個別で持っている災害時の情報が一元化され、いざというときの避難の選択や避難所同士の連携が取りやすくなります。この災救マップをツールに自治体や学校、神社や教会などの平常時から地域がつながることが期待できます。災害時の食料や毛布等の備蓄品をお寺や神社に預け、定期的に賞味期限等をチェックする仕組みなど、具体的な方法も出ました。講演の最後には、こうした災害時の連携をスムーズに進めるために、日頃から行政や地域の自治体が宗教施設と連携を持ちながら地域のコミュニティづくりをすることが大切なのです、とお話しされました。



**セミナーの様子**



**セミナーの様子**

今回のセミナーは、普段関わりの薄いお寺や神社などの宗教施設に焦点を当てた内容で、参加者の方々からも「面白かった」「普段聞けない話が聞けて良かった」という感想をいただきました。一方で、行政に関わる方からは、現実的に予算面などから考えると実現は難しいのではないか」などの質問もあり、活発な議論ができました。

今回の「野田村サテライト c セミナー・復興コース」も大変充実したものになりました。野田村サテライトセミナーでは今後も様々なコースを設け、多くの方に参加していただけるセミナーを目指します。また、サテライトに導入された遠隔教育システムを存分に活用し、サテライトでの研究・教育に参加できるシステムをさらに充実させていきます。次回は 2014 年 1 月 11 日です。